

2025 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	災害危機レジリエンス研究センター
---------	------------------

I．研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなないできるだけわかりやすく記述してください。

1. センター設置の目的

本研究センターは、複合化・重層化する災害において、「長期にわたりリスクにさらされる人」に焦点をあて、かれらの「リスク軽減」と「リスク・レジリエンス」の観点からの災害研究を推進していくために 2025 年度より設立した新しい研究センターである。これまでの災害研究は、都市計画上のハード面に着目した研究が中心となり、リスクにさらされた個人や家族への注目は、十分とは言えなかった。ハード面に限らず、長期にわたりリスクにさらされる個人や家族に着目し、かれらの生業や健康、コミュニティという「生活再建」というソフト面にも焦点を当てた研究が求められている。この「長期にわたりリスクにさらされる」という点では、狭い意味での自然災害に限らず、人為的災害・パンデミックのような感染症の蔓延、紛争や暴力、ガンや難病など闘病中の患者やそのサバイバーも、同様の課題をかかえ、リスクにさらされた個人や家族がレジリエンスしていく過程の研究は、幅広い領域にも応用可能である。

2. 2025年度の活動内容と実績

本研究センターでは、今年度、①研究センター設置にともなうキックオフシンポジウムの開催、②共同研究者の組織化、③定期的な研究会の開催、④研究資金の獲得、⑤行政機関や企業などとの連携、などに取り組んできた。

①については、11 月 15 日に末川記念館にてキックオフシンポジウムを開催した。シンポジウムでは、京都市前市長の門川大作氏による記念講演をはじめ、パネリスト等に京都府・京都市の防災部局の職員の登壇、学内外の所属する研究者などによる研究報告を行い、今後の研究センターの役割などについて議論を深めた。

②では、初年度ということもあり、研究組織を構成する研究者を学内だけでなく、学外からも構成し多彩な学問領域・世代・性別による研究者を組織化することに心がけた。また定期的に幹事会や運営委員会の開催をした。

③については、上記研究組織を中心にしてお互いの研究領域を交流することを中心としながら、毎月研究会を開催した。さらに、若手研究者や院生などにも広く呼びかけ、参加を募り、活発な研究交流や意見交換を行った。

④については、外部大型研究資金の獲得をめざし、センター所属研究者を中心にして、科研費基盤(A)の申請を行った。さらに、福島イノベーションコースト推進機構による「大学等の「復興知」を活用した地域共創人材育成・定着推進事業」の申請をした。科研費については採択に至らなかったが、復興知事業については、採択を受けることができ、2026 年度から 2030 年度まで年間約 2000 万円の資金獲得となった。

⑤については、地元京都府などとの連携を深め、災害ケースマネジメント研修など地域の防災人材の育成への協力、さらに東日本大震災を通じてできた京都府避難者支援プラットフォーム会議への参画などに実現した。

3. 今後の展開

2026 年度は、定期的な研究会の開催を行い、さらに共同研究の組織化を行うと共に、当初計画案でもある分科会構成によるグループ化を行い、さらに共同研究の発展・展開をめざす。また、外部大型研究資金の獲得にも引き続き努め、研究基盤の強化を行っていく。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2026 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割		氏名	所属	職位
センター長		丹波 史紀	産業社会学部	教授
運営委員		松田 亮三	産業社会学部	教授
		阿部 俊彦	理工学部	准教授
		泉 朋子	情報理工学部	教授
		大谷 哲弘	産業社会学部	教授
		金 度源	理工学部	准教授
		サトウ タツヤ	総合心理学部	教授
		早川 岳人	衣笠総合研究機構	教授
		宗本 晋作	理工学部	教授
		村本 邦子	人間科学研究科	教授
		山口 洋典	共通教育推進機構	教授
		山出 美弥	政策科学部	准教授
		和田 有史	食マネジメント学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)				
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員	山田 早紀	衣笠総合研究機構	研究員
	補助研究員・リサーチアシ スタント	外柳 万里	衣笠総合研究機構	補助研究員
大学院生				
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)				
客員協力研究員		鈴木 美枝子	東日本大震災・原子力災害伝承館	常任研究員
		越山 健治	関西大学社会安全学部	教授
		関谷 直也	東京大学大学院情報学環付属総合 防災情報研究センター	教授・センター長
		除本 理史	大阪公立大学大学院経営学研究科	教授
		小山 良太	福島大学食農学類	
		北垣 智基	天理大学人文学部社会福祉学科	准教授
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)				
センター構成員 計 21 名 (うち学内の若手研究者 計 2 名)				

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください(2026年3月31日時点)。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	阿部 俊彦	新建築 2025 年 11 月号「立命館大学 大阪いばらきキャンパス H 棟」	共著	2025 年 11 月	新建築 2025 年 11 月号	立命館キャンパス計画室（設計監修） 竹中工務店（設計施工）	PP.106～117
2	サトウ タツヤ	心理調査の基礎 改訂版	共編著	2025 年 9 月	有斐閣	鈴木 直人	PP.1-187
3	サトウ タツヤ	オートエスノグラフィー・マッピング 「私」からはじめる研究手法を知るための地図	共編著	2025 年 9 月	新曜社	土元哲平、桂悠介	PP.1-209
4	サトウ タツヤ	Collected Papers II on Trajectory Equifinality Approach	単著	2026 年 3 月	Chitose Press		PP.1-180
5	サトウ タツヤ	学校での「居場所」と保健室の意義	単著	2026 年 3 月	デジタル保健室—学校からひろがるケアリング・ムーブメント、紫洲書院	山村和恵、上田隼也	PP.114-132
6	村本 邦子	ジェンダーにセンシティブでありたい心理臨床家のために（「ジェンダーセンシティブ心理臨床を巡る 2 つの対話①フェミニズム、身体、土着」）	共著	2025 年 9 月	金剛出版	西井開・向井理菜ほか	PP.27-40
7	村本 邦子	『戦争トラウマを語り合う』（「トラウマで壊された関係性を修復する試みが平和をつくる一大きな声の裏に隠された小さな声や弱さを聞き取る」）	分担執筆	2026 年 2 月	泉町書房	黒井秋夫	PP.198-239
8	村本 邦子	『心理学からみるコロナ禍と人のこころ—新型コロナに人々はどう向き合ったか』「第 10 章コロナ禍で浮かび上がった倫理問題—私たち一人ひとりの責任」インタビュー 2 市井の声に耳を傾ける—ワクチン接種に抗った人々へのインタビューから」	分担執筆	2026 年 2 月	ミネルヴァ書房	青野、秋本、田口、辻、本田山（編著）、村本邦子（分担執筆）	PP.169-185, PP.216-230

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	丹波 史紀	東日本大震災の教訓はその後の災害に生かされているのか	単著	2025 年 4 月	全日本民主医療機関連合会	なし		無
2	丹波 史紀	イタリアの災害復興とボランティアの役割（前編）	単著	2025 年 6 月	総合社会福祉研究所	なし	PP.24-27	無
3	丹波 史紀	イタリアの災害復興とボランティアの役割（後編）	単著	2025 年 7 月	総合社会福祉研究所	なし	PP.40-43	無
4	丹波 史紀	真田は先生の思想と実践	単著	2025 年 11 月	総合社会福祉研究所	なし	PP.38-43	無
5	阿部 俊彦	まちづくりワークショップを支援する協働オンラインプラットフォームの開発	共著	2025 年 6 月	日本建築学会	益子智之、寶珍宏元	PP.1023-1028	有

6	阿 部 俊彦	防災建築街区の持続 的活用に関する継承 形態に関する研究 ー滋賀県彦根市彦根 銀座商店街を対象と してー	共著	2025 年 7 月	歴史都市防災論文集	井上拓磨, 益子智之, 寶 珍宏元, 金度源	PP.41-48	有
7	阿 部 俊彦	都市部寺院における 月次教化活動及び行 事の効果〜コミュニ ティ意識尺度を用い て〜	共著	2025 年 7 月	歴史都市防災論文集	篠岡果, 金度源, 大窪 健之	PP.57-64	有
8	阿 部 俊彦	利用者の視点による 駅前空間の利活用の 検討手法 -滋賀県 JR 南草津駅周辺エリア のワークショップお よび社会実験を通し て その 1-	共著	2025 年 9 月	日本建築学会大会 (九州・九州大 学) 学術講演梗概集	住田琴音、寶珍宏元		無
9	阿 部 俊彦	利用者のアクティビ ティ視点による駅前 空間の計画案の検証 -滋賀県 JR 南草津駅 周辺エリアのワーク ショップおよび社会 実験を通して その 2-	共著	2025 年 9 月	日本建築学会大会 (九州・九州大 学) 学術講演梗概集	寶珍宏元、住田琴音		無
10	阿 部 俊彦	防潮堤計画の合意形 成プロセスの特徴と 組織体制の把握 -気 仙沼市内における宮 城県管理の防潮堤計 画に関する研究 そ の 1-	共著	2025 年 9 月	日本建築学会大会 (九州・九州大 学) 学術講演梗概集	鈴木雄太		無
11	阿 部 俊彦	防潮堤計画の合意形 成プロセスにおける 局面の抽出と比較 - 気仙沼市内における 宮城県管理の防潮堤 計画に関する研究 その 2-	共著	2025 年 9 月	日本建築学会大会 (九州・九州大 学) 学術講演梗概集	鈴木雄太		無
12	阿 部 俊彦	地方小都市における 駅まち拠点のデザイ ン -滋賀県甲賀市貴 生川駅前整備事業を 対象として-	共著	2025 年 9 月	日本建築学会大会 (九州・九州大 学) 学術講演梗概集 (建築デザイン 発表)	望月俊男、鈴木雄太		無
13	阿 部 俊彦	全国の公園内美術館 の類型化と公園内施 設間の相互利用に関 する研究 -滋賀県立 美術館を対象として その 1-	共著	2025 年 9 月	日本建築学会大会 (九州・九州大 学) 学術講演梗概集	角田有優		無
14	阿 部 俊彦	全国の公園内美術館 の類型化と公園内施 設間の相互利用に関 する研究 -滋賀県立 美術館を対象とした 公園内美術館に関す る研究 その 2-	共著	2025 年 9 月	日本建築学会大会 (九州・九州大 学) 学術講演梗概集	前田里彩、寶珍宏元		無
15	阿 部 俊彦	下水処理施設を活用 した親水空間の再生 -滋賀県草津市帰帆島 を対象として-	共著	2025 年 9 月	日本建築学会大会 (九州・九州大 学) 学術講演梗概集 (建築デザイン 発表)	明石夏林、前田里彩		無
16	阿 部 俊彦	ご心配カードを用い たまちづくりビジョ ン策定ワークショッ	共著	2025 年 9 月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州大学・九州)	出原 若奈、寶珍 宏元		無

		プの有効性 —宮城県気仙沼市役 所跡地周辺（三日町・ 八日町地区）のまち づくりを事例として—						
17	阿 部 俊彦	かほくがた地縁復興 計画・石川県かほく 市大崎地区の潟に着 目して-	共著	2025 年 9 月	日本建築学会大会（九州・九州大 学）学術講演梗概集（建築デザイン 発表）	島本匠、出原 若奈、鈴 木雄太、望月俊男		無
18	阿 部 俊彦	設大学キャンパスに おける地域と連携し た共創拠点の空間と 活動の展開	共著	2025 年 10 月	日本建築学会 技術報告集	宇田川翔平, 安森亮雄, 池内祥見	PP.1550- 1555	有
19	阿 部 俊彦	景観要素と走行速度 に着目した自転車走 行空間に関する研究 —琵琶湖東岸区域草 津市・守山市）の湖岸 道路を対象として—	共著	2025 年 10 月	土木学会論文集	益子 智之, 牧田 竜明, 寶珍 宏元, 金 度源		有
20	阿 部 俊彦	第 24 回行政法研究 フォーラム —地方 分権・自治の 30 年- これまでとこれから—	共著	2026 年 3 月	法律時報	人見剛、小泉祐一郎、島 良成	PP. 56-81	無
21	泉 朋 子	褒め合いによる自尊 感情支援システムの 構築に向けたエピソ ードの有効性の検証	共著	2025 年 6 月	第 219 回ヒューマンインタフェー ス学会研究会	渡邊知朗, 安藤雅行, 大 津耕陽	PP.157- 162	無
22	泉 朋 子	対話ロボットを使っ たライフレビューの 設計と課題発見に向 けたインタラクショ ン分析	共著	2025 年 6 月	第 219 回ヒューマンインタフェー ス学会研究会	大津耕陽	PP. 77-82	無
23	泉 朋 子	デスクワーク作業者 に対する移動ロボッ トの存在感の低減： パーソナルスペース の変化と走行経路に 着目した検証	共著	2025 年 6 月	情報処理学会第213回HCI研究会	佐々木駿, 安井友徳, 安 藤雅行, 大津耕陽, 吉村 和代, 赤穂賢吾, 田中宏 平	PP. 1-8	無
24	泉 朋 子	テキストチャットの 逐次出力の速度変化 が解釈される感情の 覚醒度と快度に与え る影響の検証	共著	2025 年 6 月	第 219 回ヒューマンインタフェー ス学会研究会	酒井柚季, 安藤雅行, 大 津耕陽	PP.225- 230	無
25	泉 朋 子	グループ雑談におけ る一時離脱後の共通 認識形成による円滑 な会話復帰支援	共著	2025 年 6 月	情報処理学会第213回HCI研究会	堀丈太朗, 安藤雅行, 大 津耕陽	PP. 1-8	無
26	泉 朋 子	Impact of Performing Tasks at a Desk on Personal Space toward an Autonomous Mobile Robot	共著	2025 年 6 月	the 27th International Conference on Human-Computer Interaction	Shun Sasaki, Tomonori Yasui, Masayuki Ando, Kouyou Otsu, Kazuyo Yoshimura, Kengo Akaho, Kohei Tanaka	PP.155- 166	有
27	泉 朋 子	Evaluating the Impact of Anthropomorphized Daily Items Narrating Past Experiences on Users' Familiarity with Them: Discussion Based	共著	2025 年 6 月	the 27th International Conference on Human-Computer Interaction	Kouyou Otsu	PP.224- 243	有

		on Speech Expressions and Animistic Thinking						
28	泉 朋 子	Effect of Sequential Output of Received Messages and its Speed on the Inferred Emotion of the Sender in Text Chat Interactions	共著	2025 年 6 月	the 27th International Conference on Human-Computer Interaction	Yuzuki Sakai, Masayuki Ando, Kouyou Otsu	PP.244-259	有
29	泉 朋 子	Design of a Location Sharing Application for Enhancing Social Connectedness: Impact of Aggregated Visualization and Presenting Behavioral Commonality	共著	2025 年 6 月	the 27th International Conference on Human-Computer Interaction	Yui Toshimitsu, Masayuki Ando, Kouyou Otsu	PP.140-153	有
30	泉 朋 子	Are Strength-Related Episodes Provided by Others Useful for Improving Positive Emotions? – Toward the Design of a Computer-Based Self-Esteem Enhancement System –	共著	2025 年 6 月	the 27th International Conference on Human-Computer Interaction	Tomoro Watanabe, Masayuki Ando, Kouyou Otsu	PP.360-374	有
31	泉 朋 子	発話の話を速を模倣した逐次出力によってテキストチャットは「話している」ように感じられるか?	共著	2025 年 8 月	エンターテインメントコンピューティング 2025	酒井柚季, 安藤雅行	PP.306-311	無
32	泉 朋 子	腕の動きに連動した筋構造の情報提示がトレーニング中の内的意識に与える影響の検証	共著	2025 年 9 月	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025	佐藤陸玖, 安藤雅行, 大津耕陽	PP.1056-1063	無
33	泉 朋 子	水分摂取支援に向けた水筒の不携帯への気づきを促すシステム	共著	2025 年 9 月	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025	溝端悦, 安藤雅行, 大津耕陽	PP.1106-1113	無
34	泉 朋 子	行動継続意欲を促すための SNS グループにおけるチャットボットの導入効果	共著	2025 年 9 月	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025	榊原康平, 安藤雅行, 大津耕陽	PP.794-801	無
35	泉 朋 子	テキストメッセージ送信における「相手に届ける実感」を高める UI の提案と検証	共著	2025 年 9 月	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025	利光唯, 安藤雅行, 大津耕陽	PP.430-437	無
36	泉 朋 子	Investigating Vection-Based Directional Guidance during Snowboarding Using a VR Simulator	共著	2025 年 9 月	The ACM Symposium on User Interface Software and Technology 2025	Shunsuke Sasaki, Masayuki Ando, Kouyou Otsu	PP.1-3	有
37	泉 朋 子	VR シミュレータを用いたスノーボード滑走時の視覚刺激に	共著	2025 年 11 月	情報処理学会第215回HCI研究会	佐々木俊輔, 安藤雅行, 大津耕陽	PP.1-8	無

		よる進行方向誘導効果の検証						
38	泉 朋 子	How Memories of Encounters with Users of Tsundoku Books Contribute to Reading Motivation: An Experiment with Borrowed Library Books	共著	2025 年 11 月	The 31st International Conference on Collaboration Technologies and Social Computing	Haruto Nomoto, Masayuki Ando, Kouyou Otsu		有
39	泉 朋 子	Facilitating Smooth Rejoining in Face-to-Face Group Chats by Sharing Common Conversational Information after Temporary Absence	共著	2025 年 11 月	The 31st International Conference on Collaboration Technologies and Social Computing	Jotaro Hori, Masayuki Ando, Kouyou Otsu	PP.3-19	有
40	泉 朋 子	背表紙文字が徐々に欠けていく経年劣化表現による積読本の読書意欲の喚起	共著	2026 年 3 月	第 21 回日本感性工学会春季大会	野本晴登, 安藤雅行	PP.2-16	無
41	泉 朋 子	地図形式 Q&A システムにおける類似質問と解決人数の可視化が回答意欲に与える影響	共著	2026 年 3 月	第 21 回日本感性工学会春季大会	XIA Jiaying, 安藤雅行	PP.1-16	無
42	泉 朋 子	対面雑談への復帰時に提示される会話要約の長さや直近情報割合が会話理解に及ぼす影響	共著	2026 年 3 月	第 217 回ヒューマンコンピュータインタラクション研究会	堀丈太朗, 安藤雅行		無
43	泉 朋 子	自尊感情向上のための LLM を活用した嬉しい褒めのメッセージ作成支援システム	共著	2026 年 3 月	第 128 回コラボレーションとネットワークサービス研究会	渡邊知朗, 安藤雅行		無
44	泉 朋 子	ロボット行動の予測可能性はタスク遂行中の集中度に影響を及ぼすか？	共著	2026 年 3 月	第 21 回日本感性工学会春季大会	佐々木駿, 安井友徳, 安藤雅行, 吉村和代, 甲斐啓文	PP.2-15	無
45	泉 朋 子	ユーザの映像を伴うマナー啓発表示による当事者意識の向上と不快感の低減	共著	2026 年 3 月	第 21 回日本感性工学会春季大会	大谷勇登, 安藤雅行	PP.2-14	無
46	泉 朋 子	チャットシステムにおける文字逐次出力の速度設定機能に対するユーザ活用の分析	共著	2026 年 3 月	第 21 回日本感性工学会春季大会	酒井柚季, 安藤雅行	PP.2-15	無
47	泉 朋 子	スワイプ操作を伴う送受信プロセスがテキストチャットのやり取りの実感を高める効果の検証	共著	2026 年 3 月	第 21 回日本感性工学会春季大会	利光唯, 安藤雅行	PP.1-13	無
48	泉 朋 子	SNS グループ学習におけるチャットボットとの勝敗関係の変化が学習意欲に与える影響	共著	2026 年 3 月	第 128 回コラボレーションとネットワークサービス研究会	榊原康平, 安藤雅行		無
49	大 谷 哲弘	高校 3 年生の「キャリア選択における納得」および「キャリア選択における妥	共著	2026 年 3 月	学校カウンセリング研究	山本奨	PP.26,23-33	有

		協」の構造と経時データによる検討						
50	金 度 源	Possibilities of supportance for tourists, utilizing the disaster prevention resources in a historic hot spring resort around Dogo Onsen in Japan	共著	2025 年 6 月	Le Vie dei. Mercanti	Takeyuki OKUBO, Fumitaka SHIRANE		有
51	サ ト ウ タ ツ ヤ	心理学史諸国探訪 〔第 26 回〕トルコ ②	単著	2025 年 4 月	心理学ワールド		109	無
52	サ ト ウ タ ツ ヤ	あるコスプレイヤーは何を目指して 13 年間コスプレを続けてきたのかー永久の未完成という発達過程を Auto-TEM で描くー	共著	2025 年 5 月	TEA と質的探究	福山未智	3	有
53	サ ト ウ タ ツ ヤ	VR の本丸としての心理学における質的研究の流れ	単著	2025 年 6 月	日本バーチャルリアリティ学会誌		30 (1)	無
54	サ ト ウ タ ツ ヤ	心理学史諸国探訪 〔第 28 回〕アフリカ心理学史入門①	単著	2025 年 10 月	心理学ワールド		(111) 2	無
55	サ ト ウ タ ツ ヤ	TEA の知を生かした混合研究法の実践ー質的研究法の発展と量・質の相補的理解を踏まえてー	単著	2025 年 12 月	混合研究法		PP.512-525	無
56	サ ト ウ タ ツ ヤ	心理学史諸国探訪 〔第 28 回〕アフリカ心理学史入門②	単著	2026 年 1 月	心理学ワールド		(111) 2	無
57	サ ト ウ タ ツ ヤ	帰ってきた心理学の縦横無尽 (3) 2025 年度前半期の文化心理学ネットワーク、ちょっとだけその他	単著	2026 年 3 月	対人援助学マガジン		PP.76-86	無
58	村 本 邦 子	集合記憶と集合トラウマ：周辺からの記憶ー被災と復興の証人となる	単著	2026 年 1 月	N:ナラティブとケア		(17),80-85	無
59	村 本 邦 子	周辺からの記憶 50 2023 年度シンポジウム 震災を語り継ぐ〜いのちのバトンを手渡すために	単著	2026 年 3 月	対人援助学マガジン		16(4),107-133	無
60	村 本 邦 子	死者と共同体ー東日本大震災後を生きる	単著	2026 年 3 月	死生学年報, 東洋英和女子学院		75-93	無
61	山 口 洋 典	PBL の風と土：(33) 学生に＜機会があれば...＞と言われたら	単著	2025 年 6 月	対人援助学マガジン		61,162-167	無
62	山 口 洋 典	PBL の風と土：(34) 先生も＜勉強するんだ...＞と言われたら	単著	2025 年 9 月	対人援助学マガジン		62,173-178	無
63	山 口 洋 典	PBL の風と土：(35) 隣で＜これ何ですかね...＞と言われたら	単著	2025 年 12 月	対人援助学マガジン		63,168-173	無
64	山 口 洋 典	臨床の知・輪唱の実践	単著	2026 年 2 月	ボランティア学研究		26,58	無
64	山 口 洋 典	PBL の風と土：(36) 誰かに＜行くんですか？＞と言われた	単著	2026 年 3 月	対人援助学マガジン		64,163-168	無

65	和田有史	呼吸同期嗅覚提示デバイスによるカテゴリ不一致な味嗅覚提示時の食味変容	共著	2025 年 4 月	日本バーチャルリアリティ学会論文誌	川村美帆,西田勇樹,小早川達,大野雅貴,鳴海拓志	30(1),85-96	有
66	和田有史	人と内臓とのインタラクションを創生するボディバース	共著	2025 年 5 月	日本味と匂学会誌	岩槻 健,小早川 達,稲見昌彦	32(1),27-35	有
67	和田有史	食品添加物に対する認識改善教材の開発と効果の検討	共著	2025 年 7 月	日本食育学会誌	田村昌彦,稲津康弘,野中朋美,江渡浩一郎,堀口逸子,松原和也,上田彩子	19(3),119-129	有
68	和田有史	Effects of audiovisual temporal synchronization on visual experience of the non-dominant eye.	共著	2025 年 8 月	Cognitive processing	Hikari Takebayashi		無
69	和田有史	Simultaneous measurement of respiratory behavior using three different sensors: Pressure transducer-based, belt-type, and thermistor-based methods	共著	2025 年 9 月	SENSORS AND ACTUATORS A-PHYSICAL	Tatsu Kobayakawa,Naomi Gotow,Minako Hosono,Masaki Ohno,Yuki Nishida,Takuji Narumi	391	有
70	和田有史	Measuring temporal dynamics of satisfaction differences between animal- and plant-based foods	共著	2025 年 10 月	Appetite	Yuki Nishida,Miho Sakurai,Yamato Ishikawa,Kenichi Tomi,Ichiko Hirakakiuchi,Tsutomu Saito,Ryotaro Sato		無
71	早川岳人	ロバスト重回帰モデルを用いた新型コロナウイルス感染症による死亡者数と救急搬送困難事例との関連解析および都道府県における救急搬送体制のアンケート調査	共著	2025 年 10 月	厚生労働統計協会、国民の指標、72(12)	井上英耶、小林亮太、早川岳人	7-12	有
72	早川岳人	Comprehensive Assessment of the Impact of Blood Pressure, Body Mass Index, Smoking, and Diabetes on Healthy Life Expectancy in Japan: NIPPON DATA90.	共著	2025, Aug.	J Epidemiol. 2025 Aug 5;35(8):349-354. doi: 10.2188/jea.JE20240298. Epub 2025 Jun 18.PMID: 39805597	Tsukinoki R, Murakami Y, Hayakawa T, Kadota A, Harada A, Kita Y, Okayama A, Miura K, Okamura T, Ueshima H.	349-354	有
73	早川岳人	Smoking is Associated With Impaired Long-term Quality of Life in Elderly People: A 22-year Cohort Study in NIPPON-DATA 90.	共著	2024 Jun (実際の公開は 2025 年)	J Epidemiol. 2024 Jun 5;34(6):265-269. doi: 10.2188/jea.JE20220226. Epub 2024 Feb 29.PMID: 37743531	Liu Y, Okamura T, Hirata A, Sato Y, Hayakawa T, Kadota A, Kondo K, Ohkubo T, Miura K, Okayama A, Ueshima H.	265-269.	有

No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	丹波 史紀	東日本大震災・原子力災害による広域避難者調査 ―中間報告―	2026 年 3 月	東日本大震災・原子力災害学術研究集会	
2	松田 亮三	家族主義的福祉政策におけるケアラー支援をめぐる課題——「京都市ケアラー支援条例」制定過程における当事者参画を事例として	2025 年 10 月	社会政策学会,第 151 回 (2025 年度秋季) 大会	
3	松田 亮三	The ‘discovery’ of young carers: tracing the development of Japanese Policy responses	2025 年 7 月	The Social Policy Association (SPA) and the East Asian Social Policy Research Network (EASP) Joint Annual Conference 2025	
4	松田 亮三	Policy Responses to Child and Young Carers in Japan and South Korea: A Rapid Comparative Analysis (Preliminary Findings)	2025 年 12 月	“Social Policy Governance in East Asia—Balancing Growth, Demography, and Welfare” Workshop	
5	松田 亮三	“From Normative Ideals to Policy Realities: Rethinking the Caring State”. Paper presented at March 18, 2026, Yeonhui Hall 201, ,South Korea	2026 年 3 月	Navigating Triple Transitions: Seminar Series 3,p	
6	泉 朋子	褒め合いによる自尊感情支援システムの構築に向けたエピソードの有効性の検証	2025 年 6 月	第 219 回ヒューマンインタフェース学会研究会	渡邊知朗, 安藤雅行, 大津耕陽
7	泉 朋子	対話ロボットを使ったライフレビューの設計と課題発見に向けたインタラクション分析	2025 年 6 月	第 219 回ヒューマンインタフェース学会研究会	大津耕陽
8	泉 朋子	デスクワーク作業者に対する移動ロボットの存在感の低減：パーソナルスペースの変化と走行経路に着目した検証	2025 年 6 月	情報処理学会第 213 回 HCI 研究会	佐々木駿, 安井友徳, 安藤雅行, 大津耕陽, 吉村和代, 赤穂賢吾, 田中宏平
9	泉 朋子	テキストチャットの逐次出力の速度変化が解釈される感情の覚醒度と快度に与える影響の検証	2025 年 6 月	第 219 回ヒューマンインタフェース学会研究会	酒井柚季, 安藤雅行, 大津耕陽
10	泉 朋子	グループ雑談における一時離脱後の共通認識形成による円滑な会話復帰支援	2025 年 6 月	情報処理学会第 213 回 HCI 研究会	堀丈太朗, 安藤雅行, 大津耕陽
11	泉 朋子	Impact of Performing Tasks at a Desk on Personal Space toward an Autonomous Mobile Robot	2025 年 6 月	the 27th International Conference on Human-Computer Interaction	Shun Sasaki, Tomonori Yasui, Masayuki Ando, Kouyou Otsu, Kazuyo Yoshimura, Kengo Akaho, Kohei Tanaka
12	泉 朋子	Evaluating the Impact of Anthropomorphized Daily Items Narrating Past Experiences on Users’ Familiarity with Them: Discussion Based on Speech Expressions and Animistic Thinking	2025 年 6 月	the 27th International Conference on Human-Computer Interaction	Kouyou Otsu
13	泉 朋子	Effect of Sequential Output of Received Messages and its Speed on the Inferred Emotion of the Sender in Text Chat Interactions	2025 年 6 月	the 27th International Conference on Human-Computer Interaction	Yuzuki Sakai, Masayuki Ando, Kouyou Otsu
14	泉 朋子	Design of a Location Sharing Application for	2025 年 6 月	the 27th International Conference on Human-Computer Interaction	Yui Toshimitsu, Masayuki Ando, Kouyou Otsu

		Enhancing Social Connectedness: Impact of Aggregated Visualization and Presenting Behavioral Commonality			
15	泉 朋子	Are Strength-Related Episodes Provided by Others Useful for Improving Positive Emotions? – Toward the Design of a Computer-Based Self-Esteem Enhancement System –	2025 年 6 月	the 27th International Conference on Human-Computer Interaction	Tomoro Watanabe, Masayuki Ando, Kouyou Otsu
16	泉 朋子	発話の話を速を模倣した逐次出力によってテキストチャットは「話している」ように感じられるか?	2025 年 8 月	エンターテインメントコンピューティング 2025	酒井柚季, 安藤雅行
17	泉 朋子	腕の動きに連動した筋構造の情報提示がトレーニング中の内的意識に与える影響の検証	2025 年 8 月	エンターテインメントコンピューティング 2025	佐藤陸玖, 安藤雅行, 大津耕陽
18	泉 朋子	水分摂取支援に向けた水筒の不携帯への気づきを促すシステム	2025 年 9 月	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025	溝端悦, 安藤雅行, 大津耕陽
19	泉 朋子	行動継続意欲を促すための SNS グループにおけるチャットボットの導入効果	2025 年 9 月	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025	榊原康平, 安藤雅行, 大津耕陽
20	泉 朋子	テキストメッセージ送信における「相手に届ける実感」を高める UI の提案と検証	2025 年 9 月	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025	利光唯, 安藤雅行, 大津耕陽
21	泉 朋子	Investigating Vection-Based Directional Guidance during Snowboarding Using a VR Simulator	2025 年 9 月	The ACM Symposium on User Interface Software and Technology 2025	Shunsuke Sasaki, Masayuki Ando, Kouyou Otsu
22	泉 朋子	VR シミュレータを用いたスノーボード滑走時の視覚刺激による進行方向誘導効果の検証	2025 年 11 月	情報処理学会第 215 回 HCI 研究会	佐々木俊輔, 安藤雅行, 大津耕陽
23	泉 朋子	How Memories of Encounters with Users of Tsundoku Books Contribute to Reading Motivation: An Experiment with Borrowed Library Books	2025 年 11 月	The 31st International Conference on Collaboration Technologies and Social Computing	Haruto Nomoto, Masayuki Ando, Kouyou Otsu
24	泉 朋子	Facilitating Smooth Rejoining in Face-to-Face Group Chats by Sharing Common Conversational Information after Temporary Absence	2025 年 11 月	The 31st International Conference on Collaboration Technologies and Social Computing	Jotaro Hori, Masayuki Ando, Kouyou Otsu
25	泉 朋子	背表紙文字が徐々に欠けていく経年劣化表現による積読本の読書意欲の喚起	2026 年 3 月	第 21 回日本感性工学会春季大会	野本晴登, 安藤雅行
26	泉 朋子	地図形式 Q&A システムにおける類似質問と解決人数の可視化が回答意欲に与える影響	2026 年 3 月	第 21 回日本感性工学会春季大会	XIA Jiaying, 安藤雅行
27	泉 朋子	対面雑談への復帰時に提示される会話要約の長さや直近情報割合が会話理解に及ぼす影響	2026 年 3 月	第 217 回ヒューマンコンピュータインタラクション研究会	堀丈太朗, 安藤雅行
28	泉 朋子	自尊感情向上のための LLM を活用した嬉しい褒	2026 年 3 月	第 128 回コラボレーションとネットワークサービス研究会	渡邊知朗, 安藤雅行

		めのメッセージ作成支援システム			
29	泉 朋子	ロボット行動の予測可能性はタスク遂行中の集中度に影響を及ぼすか？	2026 年 3 月	第 21 回日本感性工学会春季大会	佐々木駿, 安井友徳, 安藤雅行, 吉村和代, 甲斐啓文
30	泉 朋子	ユーザの映像を伴うマナー啓発表示による当事者意識の向上と不快感の低減	2026 年 3 月	第 21 回日本感性工学会春季大会	大谷勇登, 安藤雅行
31	泉 朋子	チャットシステムにおける文字逐次出力の速度設定機能に対するユーザ活用分析	2026 年 3 月	第 21 回日本感性工学会春季大会	酒井柚季, 安藤雅行
32	泉 朋子	スワイプ操作を伴う送受信プロセスがテキストチャットのやり取りの実感を高める効果の検証	2026 年 3 月	第 21 回日本感性工学会春季大会	利光唯, 安藤雅行
33	泉 朋子	SNS グループ学習におけるチャットボットとの勝敗関係の変化が学習意欲に与える影響	2026 年 3 月	第 128 回コラボレーションとネットワークサービス研究会	榊原康平, 安藤雅行
34	大谷 哲弘	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 由来の青少年のトラウマ反応の収束ー2024 年調査の結果からー	2025 年 10 月	日本教育心理学会第 67 回総会	山本奨
35	サトウ タツヤ	血液型性格関連説による少数派に対する偏見や差別	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会	辻絢加, 中田友貴
36	サトウ タツヤ	タイトル 複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) ー基礎編	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会	安田裕子
37	村本 邦子	災厄を生き抜くコレクティブな「土地の力」ー脱植民主義化と知の協働的創造	2025 年 6 月	日本文化人類学会第 59 回研究大会	
38	村本 邦子	土着的視点に基づく脱植民地主義心理学の可能性を拓くー東北からプエルトリコへー	2025 年 9 月	日本コミュニティ心理学会第 28 回大会	
39	村本 邦子	原子力災害とコミュニティー双葉のコミュニティはどうなったか	2025 年 9 月	日本コミュニティ心理学会第 28 回大会	
40	村本 邦子	新型コロナワクチン被害をめぐってー社会に見えにくい隠蔽された被害への心理支援と課題その 2 コメント	2025 年 10 月	日本心理臨床学会第 44 回大会	
41	村本 邦子	科学者・実践家・擁護者モデルの形成：日本の臨床心理学の社会的役割とは何か？臨床心理士とアドボカシー・トラウマ支援に関わるなかでー	2025 年 10 月	日本心理臨床学会第 44 回大会	
42	村本 邦子	援助？いえ、好奇心ですー釜ヶ崎のココローム/釜ヶ崎芸術大学の日々人生劇場	2025 年 10 月	対人援助学会第 17 回年次大会	上田假奈代, 山口洋典
43	村本 邦子	ABR で「土地の力」を描き出すー映像とその制作プロセスの探求ー	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会	安斎聡子・伊藤哲司・小木貢・河野暁子・薛海升
44	村本 邦子	戦争・被爆・災害の記憶を架橋するー集合的トラウマに触れる、多様な実践とまなざし	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会	
45	村本 邦子	Positionality as Boundary-Spanning Practice : From Clinical Work to “the Power of the Land”	2026 年 2 月	International Exchange Event – Exploring Community Psychology –	

46	山口 洋典	Facilitating Volunteerism for the 2024 Noto Earthquake Revitalization as Against the Drive for Institutionalization: Through Focusing on the S-O-R Relationship based on the “SOFAR Model”	2025 年 8 月	IARSLCE 2025 25th Anniversary Conference	Kazutaka YAMADA (Tokai University), Masamichi SHIGENO (Ryukoku University)
47	山口 洋典	災害時における総合型スポーツクラブの受援力発揮に関する一考察	2025 年 8 月	日本グループ・ダイナミックス学会第 71 回大会	山田一隆、滋野正道、武長理栄、荒尾裕子
48	山口 洋典	援助？いえ、好奇心ですー釜ヶ崎のココローム/釜ヶ崎芸術大学の日々人生劇場	2025 年 10 月	対人援助学会第 17 回年次大会	上田假奈代、村本 邦子
49	山口 洋典	「アート」に基づいた質的研究ー研究と実践・芸術と社会の混交へのまなざしー	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会	鮫島輝美、岸磨貴子、アサダワタル、山下里加
50	山口 洋典	ボランティア学習のこれまでを俯瞰する	2025 年 11 月	日本ボランティア学習学会・第 28 回きょうと大会	名賀亨、小林洋司、興梠寛
51	山口 洋典	障がいのある就労者との協働実践を通じた学生の学びに関する一考察ー大学内の日常業務と連携したサービスマーケティングの試みー	2026 年 3 月	国際ボランティア学会第 27 回大会	高橋結
52	山口 洋典	ボランティア学習におけるお礼状執筆を通じた自己形成促進に関する一考察	2026 年 3 月	国際ボランティア学会第 27 回大会	高橋結
53	山出 美弥	SF アニメに見る宇宙建築のしつらえ表現と宇宙 QOL 向上に関する研究その 1ー10 個のカテゴリーと抽出シーン分類ー	2025 年 9 月	日本建築学会大会 (九州)	清家悠大、清武敏英、荒木慶一
54	早川岳人	ラジオとアート	2025 年 10 月	対人援助学会第 17 回年次大会	中村正

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	研究センター設立記念シンポジウム	衣笠キャンパス	2025 年 11 月	42 名	災害危機レジリエンス研究センター
2	第 1～8 回レジリエンス研究会	オンライン	2025 年	のべ 80 名	なし

5. その他研究活動 (報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	阿部 俊彦	気仙沼復興照明計画	土木学会デザイン賞受賞記念イベント「設計者が語る！気仙沼の土木デザイン」講演、パネラー	2025 年 6 月
2	阿部 俊彦	東日本大震災の復興まちづくり (宮城県気仙沼市内湾地区)	立命館大学災害危機レジリエンスセンター設立記念シンポジウム、パネラー	2025 年 11 月
3	阿部 俊彦	専門課程 建築計画 (企画・設計)	国土交通大学 専門課程 建築計画 (企画・設計) 研修 講師	2025 年 12 月
4	阿部 俊彦	Recovery from Double-Disaster: Noto Peninsula Earthquake and Torrential Rain Disaster	AIA NY DfRR	2026 年 1 月
5	阿部 俊彦	能登半島地震復興まちづくりシンポジウム	日本都市計画学会	2026 年 2 月
6	阿部 俊彦	JSURP まちづくりフォーラム	黒島公民館	2026 年 2 月
7	サトウ タツヤ	「知能検査」は子どもを伸ばすためにどう活用すべき？	東洋経済オンライン	2026 年 3 月
8	サトウ タツヤ	TEA (複線径路等至性アプローチ)ーオフィスにおける人生径路と課題	第 26 回日本オフィス学会大会	2025 年 9 月

		解決を考えるためにー		
9	サトウ タツヤ	複線径路等至性アプローチの基礎	愛知県立大学大学院特別講演	2026 年 3 月
10	早川 岳人	コミュニティラジオ「拝啓おじいちゃんおばあちゃん」	コミュニティラジオ毎週土曜日	継続

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	阿部 俊彦	土木学会	デザイン賞 優秀賞	気仙沼復興照明計画	2025 年
2	阿部 俊彦	公益財団法人日本デザイン振興会	グッドデザイン賞	キャンパス [立命館大学大阪いばらきキャンパス H 棟]	2025 年
3	泉 朋子	The 31st International Conference on Collaboration Technologies and Social Computing	Best Paper Award	Facilitating Smooth Rejoining in Face-to-Face Group Chats by Sharing Common Conversational Information after Temporary Absence	2025 年 11 月
4	金 度源	Le Vie dei. Mercanti	Best Paper Award, Le Vie dei. Mercanti XXIII International Forum WORLD HERITAGE and Food to Feed	Possibilities of supportance for tourists, utilizing the disaster prevention resources in a historic hot spring resort around Dogo Onsen in Japan	2025 年 6 月
5	山口 洋典	日本 NPO 学会	第 23 回日本 NPO 学会賞・優秀賞	コミュニティ・デザイン新論	2025 年 6 月
6	山口 洋典	日本社会関係学会賞	第 4 回日本社会関係学会賞	特別賞	2026 年 3 月

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	丹波 史紀	長期避難を余儀なくされた被災者の調査と支援に関する研究	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
2	松田 亮三	デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究	基盤研究(S)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
3	阿部 俊彦	海岸堤防事業の合意形成プロセスの方法論分析による協働意思決定モデルの構築	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	分担
4	阿部 俊彦	気候変動に適応する「流域空間デザイン」の方法論的開発	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	分担
5	阿部 俊彦	インタラクティブシミュレーションに基づく人間中心の都市空間デザインの実践	国際共同研究加速基金 (海外連携研究)	2023 年 9 月	2028 年 3 月	分担
6	大谷 哲弘	教員養成課程における「非自殺性自傷行為」への介入技術教育に関する研究	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
7	山口 洋典	理論と実践の往還を通じた越境的学びによる日本語教師養成プログラムの開発と検証	基盤研究(B)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
8	山出 美弥	原発事故後のシビアな土壌汚染地のコミュニティ再生に向けた地方再生政策への提言	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
9	山出 美弥	喪失技術としての炭滓・鉍滓煉瓦の復元ー現代インドの複合 SDG s 課題解決に向けてー	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
10	山出 美弥	公立学校・廃校をコミュニティ・ハブに転換する計画・運営・プロセスとその評価指標	基盤研究(B)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
11	和田 有史	おいしさの認知科学の創出 ー味嗅覚と多感覚の統合の解明と伝送技術開発ー	基盤研究(A)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	阿部 俊彦	貴生川まちづくり活動支援業務委託（その 4）	受託研究	2025 年 4 月	2026 年 3 月	代表

2	阿部 俊彦	南草津エリアの魅力あるまちづくりに向けた基礎調査の分析およびプロジェクト検討業務	受託研究	2025 年 10 月	2026 年 3 月	代表
3	阿部 俊彦	町野地区復興まちづくりワークショップ支援業務	受託研究	2025 年 10 月	2026 年 3 月	代表
4	阿部 俊彦	ひらかれたバナソニック構想の都市デザインの提案	受託研究	2025 年 10 月	2026 年 3 月	代表
5	阿部 俊彦	UR 総持寺団地の再生まちづくり提案	提案	2025 年 10 月		代表
6	泉 朋子	高齢者のための対話的音声入力によるメッセージ作成支援システムの開発	公益財団法人カシオ科学振興財団研究助成	2025 年 12 月	2026 年 11 月	代表
7	サトウ タツヤ	メタバースを活用した新しい教育	受託研究	2024 年 7 月	2026 年 3 月	代表
8	山出 美弥	ジオパーク構想からみた地域活性化と調和のとれたインバウンド誘致の可能性ー鹿児島県硫黄島を事例としてー	競争的資金等の外部資金による研究	2025 年 7 月	2026 年 2 月	代表
9	山出 美弥	桑畑を起点とした地域再生におけるコミュニティ・デザイン手法の解明	共同研究	2024 年 9 月	2025 年 8 月	代表
10	早川岳人	国民健康・栄養調査対象集団の新旧コホート研究における健康日本 21（第三次）推進のエビデンス構築：NIPPON DATA80/90/2010	令和 7 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金；循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策双方研究事業	2024 年 4 月	2027 年 3 月	分担

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国